

やみとひかりの美術館 概要

2024
7/13土—9/1日

田川市美術館
TAGAWA MUSEUM OF ART

出品作家
塩澄祥大
アトリエオモヤ
鈴木太郎
中村禎仁
山田彩七光

美術館

やみとひかりの

開館時間 | 9:30~17:30 (入館は17:00まで) 休館日 | 月曜日(祝日の場合はその翌日)
入館料 | 一般800円(700円) / 高大生400円(300円) / 小中生200円(100円) / 未就学児無料
※ () 内は20名以上の団体および田川市在住者[要身分証明書]の料金
※ 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介助者1名は無料
※ 土曜日は高校生以下無料

主催 | 田川市美術館 共催 | 田川市立図書館 協力 | NPO法人アーツトンネル
キュレーション・イラストレーション | 藤本亜季

かつて炭坑産業で栄えた田川市には、「やみ」が支配する坑道という地下と、「ひかり」に満ちた地上という対照的な2つの世界が存在していました。本展は、こうした筑豊・田川の地域性を美術館の展示室に再現しようとするものです。「やみ」と「ひかり」をそれぞれの視点でとらえる4名の現代作家の作品が展示室いっぱいに広がります。体感型のインスタレーションや体験型のメディアアートをとおして、からだ全体でアートを楽しめる機会となります。見て、触って、聴いて…様々な感覚を刺激するアートをお楽しみください。

期間：2024年7月13日(土)～9月1日(日)(44日間)

時間：9:30～17:30(入館17:00まで)

会場：全フロア

観覧料：一般800円(700円) / 高大生400円(300円) / 小中生200円(100円) / 未就学児無料

※ () 内は20名以上の団体および田川市在住者[要身分証明書]の料金

※ 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介助者1名無料

※ 土曜日は高校生以下無料

主催：田川市美術館

共催：田川市立図書館

協力：NPO法人アーツトンネル

関連イベント

フードマルシェ

美術館の前庭で美味しいフードやドリンクを楽しめるミニマルシェを開催します。

日時：8月10日（土）10:00～15:00

会場：田川市美術館

ツキ市

人気のマルシェイベント「ツキ市」が田川市美術館にやってきます。

日時：8月11日（日）11:00～15:00

会場：田川市美術館

主催：久保田鈴菜

クロージングワークショップ

作って照らそう！わたしたちの地下都市

廃材などを使って、自分たちが想像する地下都市を作ります。

完成した作品を中村禎仁氏のインスタレーション作品の中に置き、懐中電灯や電気ランタンを使って照らし、光と影を味わいながら鑑賞します。

講師：佐土嶋洋佳（アーティスト）

日時：9月1日（日）13:00～15:00

会場：AVホール・ギャラリーA

定員：20名

申込：お電話にてお申し込みください。申し込み開始は8月1日（木）。定員に達し次第、締め切らせていただきます。

対象：5歳～中学生 ※小学校低学年以下は保護者同伴

料金：1500円 ※別途観覧料が必要となります。

協力：ずこうしゃこどもアートスタジオ /NPO 法人アーツトンネル

同時開催

松村泰三：光の彫刻～ surface[2]

刻々と変化してゆく不思議な光の彫刻が楽しめます。

会場：常設展示室

スカブラひろば

絵本や図録を読んだり、外の景色を眺めたり、子どもと一緒にゆっくりした時間を過ごしてみたり…

忙しい日々の中でちょっとひと息つける憩いのひろばとしてご利用ください。

会場：AVホール

本展のみどころ

- ・いつもとは違う！暗い美術館。
- ・田川、東京、岐阜で活躍する4人の現代作家の作品が集合。
- ・メディアアート、インスタレーション、インタラクティブアートなどの体験型アートを展示。
「見るだけ」ではない、からだ全体でアートを楽しむ。
- ・田川で活動する「アーツトンネル」「ずこうしゃ」「ツキ市」とのコラボイベントを開催。



ガブリちゃん

今回の広報に使用しているキャラクターです。
川渡り神幸祭の山笠をモチーフにデザインしています。

出品作家

中村禎仁

なかむらさだひと

《core #2》

ジャンル：インスタレーション

床一面に敷き詰められた黒用紙を裸電球が仄暗く照し、炭坑のくらやみを連想させます。鏡の道を歩き進めると、突き当たりの壁に大きな絵が飾られていることがわかります。暗闇に目が慣れると、描かれているものがだんだんはっきりと見えてきます。



中村禎仁 《core #2》2024年

1982年福岡県田川郡生まれ。近畿大学産業理工学部を卒業後、東京で作家活動を開始。現在はいいかね Palette（田川市）でイベントマネージャーとして勤めながら田川市を拠点に活動。「光と闇」をテーマに日常に存在する曖昧な事象によって引き起こされる情緒を表現している。

塩澄祥大

しおずみしょうた

《 Tactile Feedback 》

ジャンル：メディアアート、インタラクティブアート

中央展示室の壁に9台のモニターを設置して、それぞれにセンサーが取り付けられています。鑑賞者がモチーフを動かすことでセンサーが反応して、モニターに映し出された映像に変化が現れます。

Tactile【触覚】 Feedback【反応、反響】というタイトルの通り、鑑賞者がモチーフを触る感覚と、画面から返ってくる視覚的な情報を体験型作品として制作しています。実際にモチーフを動かしているとモチーフの元の位置がわからなくなります。この体験を通して、鑑賞者に作品鑑賞における意識領域を自覚させることを目標に制作されました。

九州産業大学の卒業研究として2022年に発表された作品を、本展のためにアップデートを加えて展示されます。

また、夏休みの子供たちの自由研究の参考になるように、この作品が動くまでの過程(モニター、パソコン、センサーなど)を隠さずに展示します。



塩澄祥大 《 Tactile Feedback 》 2022 年

1998年福岡県福岡市生まれ。2022年に九州産業大学芸術学部芸術表現学科を卒業、2024年に情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] を修了し、現在は同大学のイノベーション工房に勤めながら、作家として活動。

映像、作曲などのメディアアートを軸に作品制作を行う。

鈴木太朗

すずきたろう

《光であそぶ》

ジャンル：インタラクティブアート

展示室の宙に六角形のオブジェが3基吊られています。オブジェの底面には布が張っており、中には色とりどりのビー玉が煌めいています。鑑賞者は《光であそぶ》の下に潜り、布を押し上げながらビー玉を動かします。ビー玉は触り方によってさまざまな動きを見せるので、その時々色の重なりや煌めきを鑑賞して楽しめます。

以下は、鈴木氏による作品の紹介文です。

“キラキラとかがやく光にふれる。コロコロとした確かな手ざりとともに光とあそぼう。やさしく触れると水のように動き、たたくとはじける光のつぶたち。”



鈴木太朗《光であそぶ》2009年～ 撮影：シロヤマ写真館

1973年東京都生まれ。2000年に東京藝術大学美術学部デザイン科を卒業し、2003年には芸術家集団「アトリエオモヤ」を立ち上げる。2005年に東京藝術大学大学院で美術研究科の博士号を取得し、現在は同大学の美術学部デザイン科で准教授を務めながら、作品を発表している。自然の物理現象を観察、その魅力を綿密な考察と理解から引き出し、根本的な美しさを持つ作品を生み出すメディアアーティスト。

山田彩七光

やまださなみ

《 One 》

ジャンル：映像インスタレーション

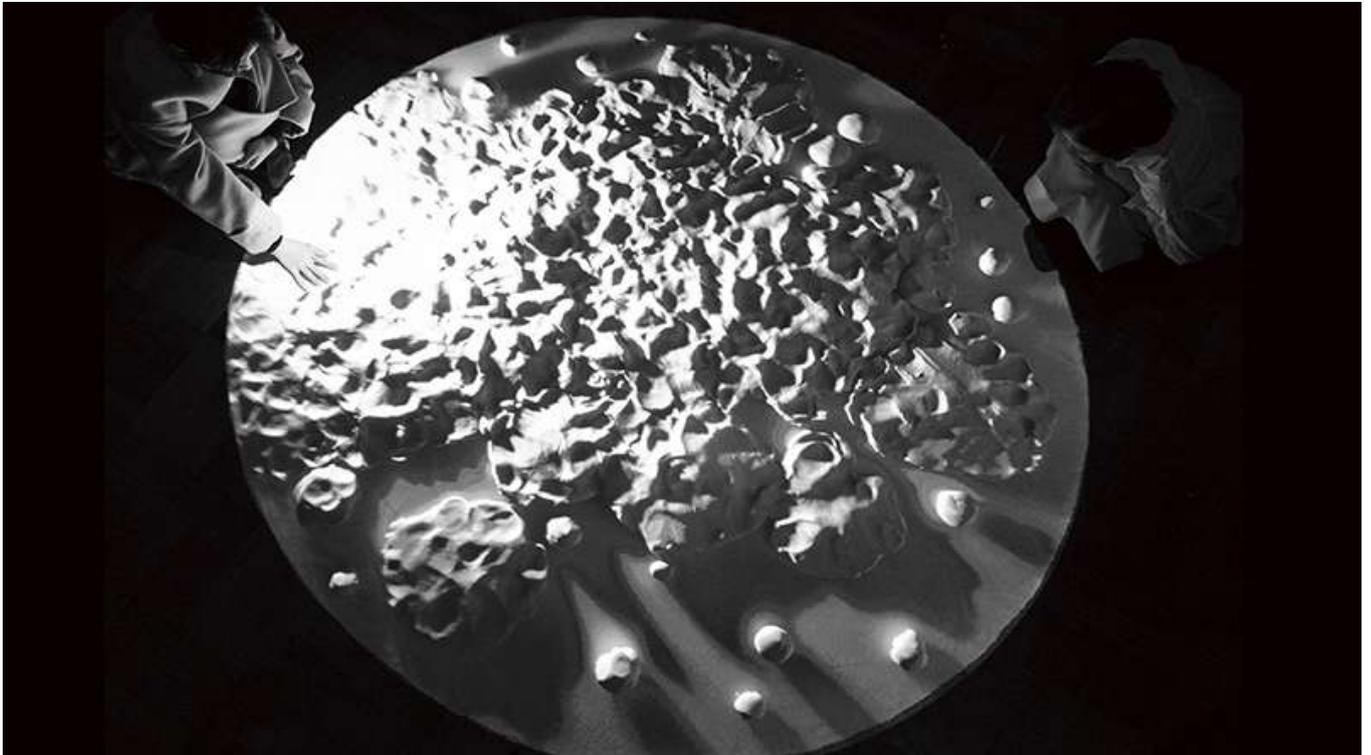
粘土をコマ撮りしたクレイアニメーションが、円形のスクリーンに投影されます。白い粘土が流動的に動き、光源は外周に沿ってゆっくりと回ります。撮影と投影の画角を真俯瞰にすることで、スクリーンに投影される像は立体的に見え、鑑賞していると現実と虚構が曖昧になります。

以下は、山田氏による作品解説からの引用文です。

“砂浜で海を見るように、ループする現象を俯瞰する。映像と空間は、そこにいる人の記憶によって融合する。言語や性別、年齢の壁を越えて、「ひとつ」のことを伝えたいと思った。”

“何をもって「ひとつ」と言えるのか。何も「無い」ということは、何かが「有った」記憶があるから意識できる。何かが「有る」ということを意識するほど、それを説明できるものは何も「無い」ことを自覚する。目の前で続いている現象は、それを捉える者がいなければ、存在していないことになるのだろうか。人知れず流れている時間を想像することで、自分の輪郭が見えてくる。

存在が消えても流れ続ける時間の中で、私たちは何を「ひとつ」としているのか、考えてもらいたい。”



山田彩七光 《 One 》 2020 年

1995年東京都生まれ。2020年に東京藝術大学美術学部デザイン科を卒業し、2023年に東京藝術大学美術研究科デザイン専攻空間演出研究室修了。現在は同大学で鈴木太郎の助手を務めながら、作家として活動。

アニメーションの技法を用いて映像作品やインスタレーションを制作。独自の時間の捉え方で空間と映像を融合させ、虚構と現実や日常と非日常の揺らぎを表現する。